
視るが六代目

松山まい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

視るが六代目

【Nコード】

N8980L

【作者名】

松山まい

【あらすじ】

時代は室町。

ひょうたんと大袋をお供に、男が一人の人物を捜す。

ちょうどその頃、身体能力、ロクシキ（眼耳鼻舌身意）に特化した一族が現れる。

……その、「目」を巡る、物語。

ブローグ

「みむろまめたろう?」

「おうおう。そいつがちつとも見当たりやしねえ」

「そうさなあ……午鹿にでも行ったんじゃないのかい」

「へえ、そんなことばやいてやがったのか」

「いや店から出て右さ行きよったから」

「午鹿にねえ……」

男はしばらく考えを巡らせていたが、口を横に伸ばし笑うと、景気良く声を響かせた。

「はんっ、行つてやろうじゃないの!」

「お客さん、気をつけなさつてね」

濁る言葉に柔らかく微笑んで。

「おう、あんがとさん。すっかり邪魔しちまった」

手には大袋、腰には瓢箪。足取りは揚々、右へ折れる。

向かうが先は午鹿。

山間の商売人達が憩う場として賑わう温泉街である。

「勘弁するんはあんたの方さ、視無六目様」

プロローグ（後書き）

最後まで書き上げられるかわかりませんが、亀並更新でのろのろが
んばっていいこうと思いますので、どうぞ宜しくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8980/>

視るが六代目

2010年10月14日18時29分発行